

陳 情 文 書 表

(文化市民局)

受 理 番 号	2747	受 理 年 月 日	令和7年2月12日
件 名	ウィングス京都の今後の方針に係る協議内容の公開		
要 旨	<p>昨年12月25日、京都市会の文教はぐくみ委員会で、男女共同参画センター（ウィングス京都）の今後の方針案が示された。</p> <p>その時点では、委員会前日に開催された男女共同参画審議会では今後の方針案の報告もされておらず、ウィングス京都の発展のために日々心を砕いている施設職員や利用団体等関係者への情報提供も意見聴取もなかった。その一方で、調査後も引き続き対話を続けるというサウンディング型市場調査の募集要項にのっとって民間事業者とは意見を交わしてきたとしながら、その検討内容については委員会でも示されなかった。</p> <p>委員会で市担当者は、そもそもウィングス京都は男女共同参画の拠点、女性活躍を推進する拠点と述べ、各委員からは施設のレイアウトも見直すという説明があったが、そのことによってこの施設本来の機能が縮小してしまっは意味がない、男性女性の共同参画ということが一番大きい、それから公的な施設であると、この線は崩れないなどの発言があった。さらに、1月22日の委員会では、市担当者から若い世代や地域も含めて関係者や女性団体にも情報提供して意見を聴くことが表明された。</p> <p>こうした委員会の議論の中で、民間事業者の活力やにぎわいが男女共同参画にどう寄与するのかを明言しないことが、幾つかの疑問を生じさせている。</p> <p>今後の方針案では、令和7年度中に民間事業者をプロポーザル方式により公募、選定とあるが、その民間事業者とウィングス京都の指定管理者や京都市ユースサービス協会との関係や住み分けについては明瞭ではない。</p> <p>また、サウンディング型市場調査以降、市と協議してきた民間事業者がプロポーザル参加するのであれば、その競合に公平性は担保されるのだろうか。</p> <p>さらに、周辺の公共施設ともつながる新たなエリア、公共空間づくりやウィングス京都と周辺商業施設等との連携は、ウィングス京都の本来の機能を損なわず、充実させ得るものであろうか。</p> <p>京都市でも、フェムテック分野での起業や産学連携、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の広がりやユースクリニックの開設などが進み、この数年の男女共同参画に関わる変化は目覚ましいものがある。</p> <p>男女共同参画の拠点、女性活躍を推進する拠点であるウィングス京都には、日々拡大する市民ニーズに柔軟に対応する力が求められており、その実現のためには議論の内容やプロセスを絶えず公開して、市民と専門家（民間事業者を含む。）の声を聴くことが重要だと考える。</p> <p>については、ウィングス京都の今後の方針を多くの市民の理解と同意を得たものにするため、サウンディング型市場調査以降、京都市が民間事業者と協議してきた内容を公開し、市民に諮ることを願う。</p>		
陳 情 者			
回 付 委 員 会	文教はぐくみ委員会		